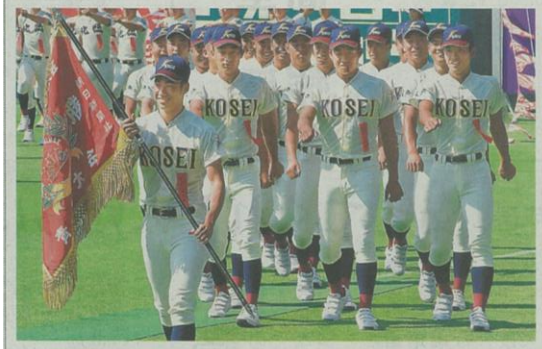
２０１８年（平成３０年）８月５日　日曜日

東奥日報　１２面　掲載

100回目の夏きょう開幕

光星ナイン堂々行進

開会式リハーサル



第100回全国高校野球選手権に出場する本県代表の八戸学院光星ナインは4日、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で開会式のリハーサルに参加した。前年度優勝校・花咲徳栄（北埼玉）の杉本直希主将を先頭に、南から北の順に56校が入場行進。光星は54番目の登場となった。

ナインは県大会優勝旗を持った長南佳洋主将を先頭に、ベンチ入り選手18人が豊田勝利選手の元気な掛け声に合わせて堂々と行進した。

リハーサルは、近江（滋賀）の中尾雄斗主将がはつらつと宣誓するなど本番さながらの雰囲気の中で約40分間行った。

光星はこの日を休養日に充てた。宿舎に戻ったナインは、午後からミーティングを行った後、思い思いの時間を過ごして英気を養った。（高松拓輝）

開会式のリハーサルで、長南主将（手前）を先頭に堂々と入場行進する八学光星ナイン＝4日午前9時17分、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場

OBのプロ選手 次々〝差し入れ〟

大阪府吹田市内にある八学光星の宿舎に、光星OBのプロ野球選手からナインへの贈り物が続々と届いている。4日までに、坂本（巨人）、北條（阪神）が練習用Tシャツをそれぞれ全選手とマネジャーら125人に、田村（千葉ロッテ）からキャッチャープロテクター3組が贈られた。

坂本のTシャツは黒が基調で「KOSEI」の金のロゴマークが左胸に輝く。北條のTシャツは迷彩柄のデザイン。田村のプロテクターは「軽くて動きやすい」と捕手陣に好評だ。

捕手の秋山は「頑張っていることを頭に入れて練習に励みたい」と闘志を燃やした。（高松拓輝）

プロに進んだOBからの贈り物を着用して笑顔の選手たち＝4日午後、大阪府吹田市

八学光星 仲井監督
明石商 狭間監督
全ての選手に期待

11日対戦 両監督こう戦う

投手陣中心に守る

2年ぶり9回目出場の八学光星は11日の1回戦で、地元兵庫県の明石商（初出場、西兵庫）と対戦する。明石商は強豪ひしめく同県内の公式戦で昨年秋から22勝無敗。4日、甲子園球場で行われた開会式のリハーサルに先立ち、スタンド席で八学光星・仲井宗基監督（48）と明石商・狭間善徳監督（54）に話を聞いた。

―相手の印象は。

仲井監督　攻守、投手力のバランスが良く、特にバントや盗塁など、打撃以外の攻撃力が高い。

狭間監督　投手の福山君は常時140㌔前後の速球と多彩な変化球を投げると聞いている。走攻守そろったいいチーム。

―試合のキーマンは。

仲井監督　甲子園では毎試合ラッキーボーイが出ないと勝てない。全選手に期待する。県大会に出ていない左腕成田がどういう働きができるか。

狭間監督　相手は右腕も左腕もいる。チーム一丸で戦わなければ。

―警戒する選手は。

仲井監督　エースの福谷君と左腕の加田君。左右の投手の攻略が鍵。

狭間監督　全ての選手に期待する。打撃では特に1、2番の近藤君、武岡君。福山君はそう簡単には打てないと思うので、球の見極めが大事。

―理想の展開は。

仲井監督　展開は読めない。必ずもつれる展開になる。

狭間監督　投手陣を中心にした守りで最少失点に抑えられれば。

―意気込みを。

仲井監督　地元の高校なので応援は多いと思う。一生懸命、光星らしい良い野球をしたい。

狭間監督　やってきたことしかできない。自分たちにできる最善を尽くして戦う。（高松拓輝）

光星 甲子園だより

新たな武器 現地で習得

武岡　龍世 内野手（2年）

3日の実戦練習で絶妙なドラッグバントを決め周囲を驚かせた。「現地入り後にできるようになった」という。成長著しい2年生は新たな武器を手に甲子園に乗り込む。

高校球児だった父、兄から託された「甲子園出場の夢」が原動力で「成長した姿を見せたい」と意気込む。「3年生のために、とかはない」とひょうひょう。「2年生らしく、がむしゃらにやる。結果は付いてくる」と威勢もいい。

（徳島県・鴨島一中出身、178㌢、70㌔、右投げ左打ち）

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです